

2013年3月期 通期決算概要

ルネサス エレクトロニクス株式会社

2013年5月9日

代表取締役社長 鶴丸 哲哉

社長の鶴丸でございます。
本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2013年3月期通期の決算概要について説明いたします。

エグゼクティブサマリー

I. 2013年3月期 通期 決算概要

- 通期の半導体売上高は、世界的な市況停滞の継続などにより、前期比で7.8%減の7,247億円
- 通期の営業損益は、研究開発費の効率化、販売費及び一般管理費の削減などの費用削減策を実行したものの、売上減による利益減をカバーするまでには至らず、赤字を計上
- 第4四半期は、半導体売上高が前四半期比で33億円の減少となったものの、営業損益は黒字に転換し、改善傾向。下期累計でも営業損益は黒字化を達成

II. 構造改革の進捗状況

- 成長戦略の実行に向けた人員構成の最適化などの更なる合理化施策の実施について、労使協議を経て、3月28日に取締役会にて決議
- 国内後工程3工場の売却について、3月19日に最終合意するなど、生産構造改革は着実に進展

© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

2

RENESAS

こちらが本日の説明内容のサマリーです。

第一に、2013年3月期の決算概要についてです。

2013年3月期通期の半導体売上は、世界的な市況停滞の継続などにより、前期比で7.8%減の7,247億円でした。

営業損益は研究開発費効率化、販売費及び一般管理費の削減などの費用削減策を実行したものの、売上減による利益減をカバーするまでには至らず、赤字を計上しました。

2013年3月期 第4四半期の半導体売上高は、前四半期比で33億円の減少となりましたが、営業損益は黒字に転換しました。また、下期累計でも黒字を達成しました。

第二に、人的合理化施策と生産構造改革の進捗状況についてです。

成長戦略の実行に向けた人員構成の最適化などの更なる合理化施策について、労使協議を経て3月28日に取締役会にて決議いたしました。

また、国内後工程の3工場売却について3月19日に最終合意するなど、生産構造改革は着実に進展しています。

I. 2013年3月期 通期 決算概要

それではまず、2013年3月期 通期の決算概要についてご説明します。

2013年3月期 通期 決算概要

- 通期の半導体売上高は、世界的な市況停滞の継続などにより、前期比で7.8%減の7,247億円
- 通期の営業損益は、研究開発費の効率化、販売費及び一般管理費の削減などの費用削減策を実行したものの、売上減による利益減をカバーするまでには至らず、赤字を計上
- 第4四半期は、前四半期比売上減なるも固定費削減効果などにより営業損益・経常損益とも黒字化達成。営業損益は、下期累計でも黒字化を達成

2013年3月期						
(単位:億円)	第4四半期	前四半期比	下期	前回予想比	通期	前期比
売上高	1,854	△56	3,764	+158	7,858	△973
半導体売上高	1,739	△33	3,511	+137	7,247	△614
営業損益	80	+160	1	+28	△232	+335
経常損益	87	+198	△24	+71	△269	+344
当期純損益	△59	+408	△525	+84	△1,676	△1,050
1US\$=	89円	10円 円安	84円	1円 円安	82円	3円 円安
1ユーロ=	118円	15円 円安	110円	1円 円安	106円	3円 円高

© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

4

RENESAS

まず、通期実績のサマリです。

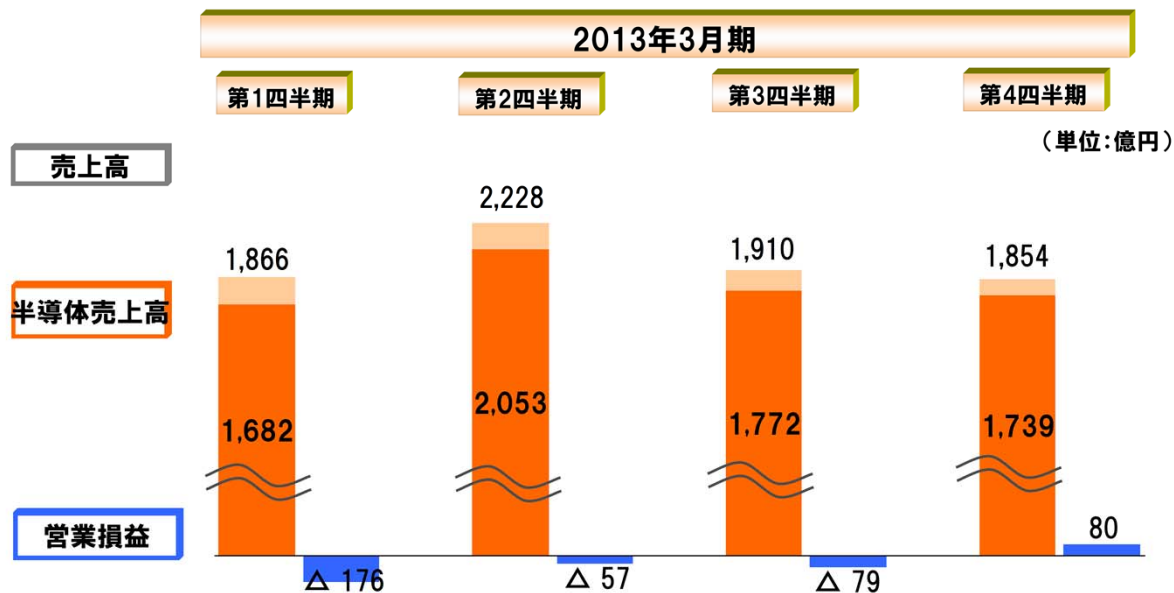
半導体売上高は、世界的な市況停滞の継続などにより、前期比で7.8%減少の7,247億円となりました。

営業損益は、研究開発費の効率化、販売費及び一般管理費の削減などの費用削減策を実行したものの、売上減による利益減をカバーするまでには至らず、赤字を計上しました。

第4四半期は、前四半期比33億円の半導体売上の減少となりましたが、固定費削減効果等により営業損益・経常損益とも黒字化を達成しました。営業損益は、下期累計でも黒字化を達成しました。

2013年3月期 四半期業績推移

- 第4四半期は、半導体売上高が前四半期比で33億円の減少となったものの、営業損益は黒字に転換



© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

5

RENESAS

5ページは、四半期ごとの業績推移です。

先ほど申し上げましたとおり、第4四半期の半導体売上高は前四半期比33億円減収となりました。営業損益は固定費削減効果等により営業損益は80億円の黒字となりました。

2013年3月期 半導体売上高の事業別状況①

- 通期の半導体売上高は、自動車向けは堅調を維持したほか、大型カスタム案件が大きく牽引したものの、それ以外の汎用が弱含みで前期比7.8%減少
- 第4四半期の半導体売上高は、為替影響による改善約110億円があったものの、第3四半期まで牽引していた大型カスタム案件の減速もあり、前四半期比1.8%の減少

(単位:億円)	2013年3月期			
	第4四半期	前四半期比 (%)	通期	前期比 (%)
半導体売上高 計	1,739	△1.8%	7,247	△7.8%
マイコン	776	+9.0%	3,052	△9.3%
アナログ&パワー半導体(A&P)	546	△5.5%	2,352	△3.5%
SoC	391	△13.4%	1,735	△13.7%
その他半導体	27		108	

© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

6

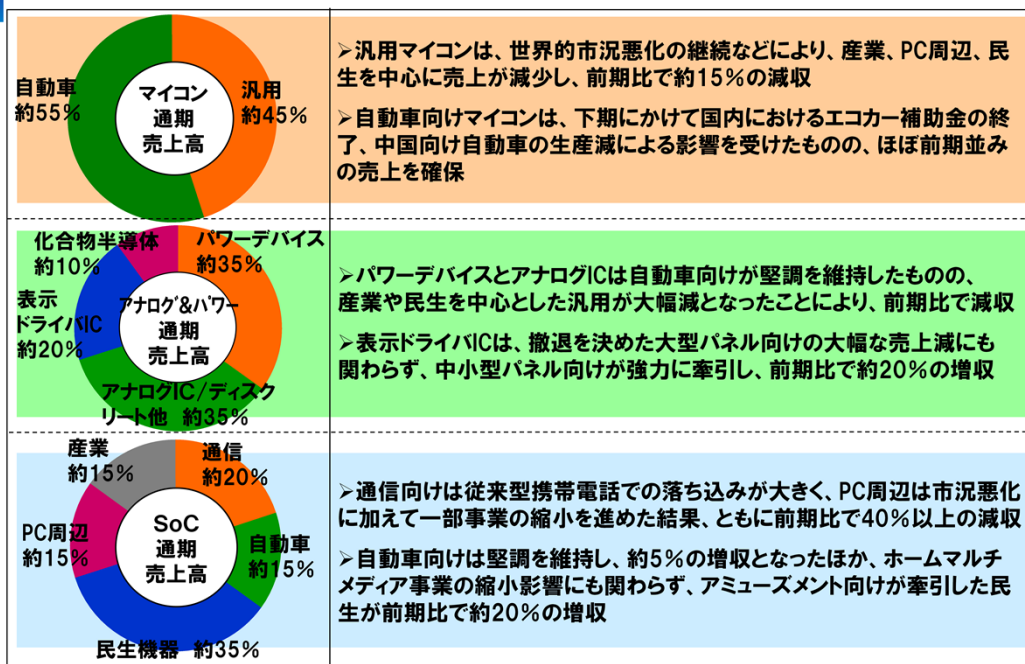
RENESAS

続いて、通期および第4四半期の事業別の半導体売上高です。

通期の半導体売上高は、自動車向けは堅調を維持したほか、大型カスタム案件が大きくけん引しましたが、それ以外の汎用製品が伸びず、前期比で7.8%の減少となりました。

第4四半期の半導体売上高については、為替影響による改善が約110億円ありましたが、大型カスタム案件の減速もあり、前四半期から1.8%減少しました。

2013年3月期 半導体売上高の事業別状況②



© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

7

RENESAS

7ページは、2013年3月期 通期の各事業別の売上について、分野別での状況を示したものです。

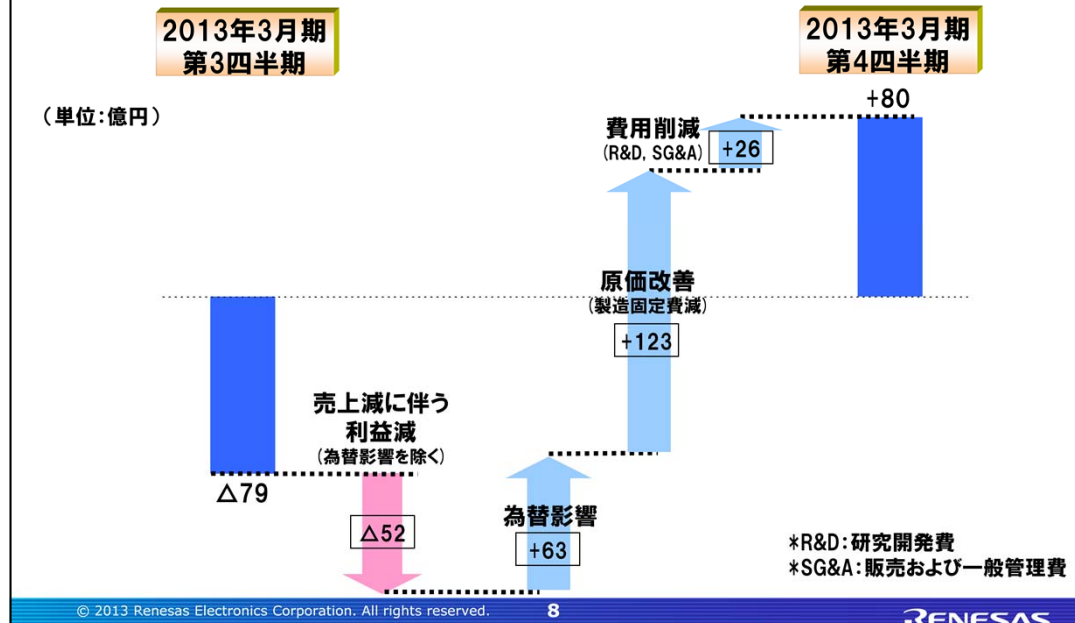
マイコンにおいては、汎用マイコンは、世界的市況悪化の継続により、産業、PC周辺、民生を中心に売上が減少し、前期比で約15%の売上減となりました。一方、自動車向けマイコンは、下期にかけて国内におけるエコカー補助金の終了、中国向け自動車の生産減による影響を受けたものの、ほぼ前期並みの売上を確保しました。

アナログ&パワー半導体においては、自動車向けパワーデバイスとアナログICが堅調を維持したものの、産業や民生を中心としたその他用途向けが大幅減となったことにより、前期比で売上減となりました。一方、表示ドライバICは、撤退を決めた大型パネル向けの大幅な売上減にも関わらず、中小型パネル向けが強気にけん引し、前期比で約20%の増収となりました。

SoCにおいては、モバイル、ネットワーク機器などの通信向けは、従来型携帯電話での落ち込みが大きく、PC周辺は市況悪化に加え、一部事業の縮小を進めた結果、ともに前期比で40%以上の減収となりました。自動車向けは堅調を維持し、約5%の増収となったほか、民生向けではホームマルチメディア事業の縮小影響にも関わらずアミューズメント向けが牽引し、前期比で約20%の増収となりました。

2013年3月期 第4四半期営業損益（前四半期比）

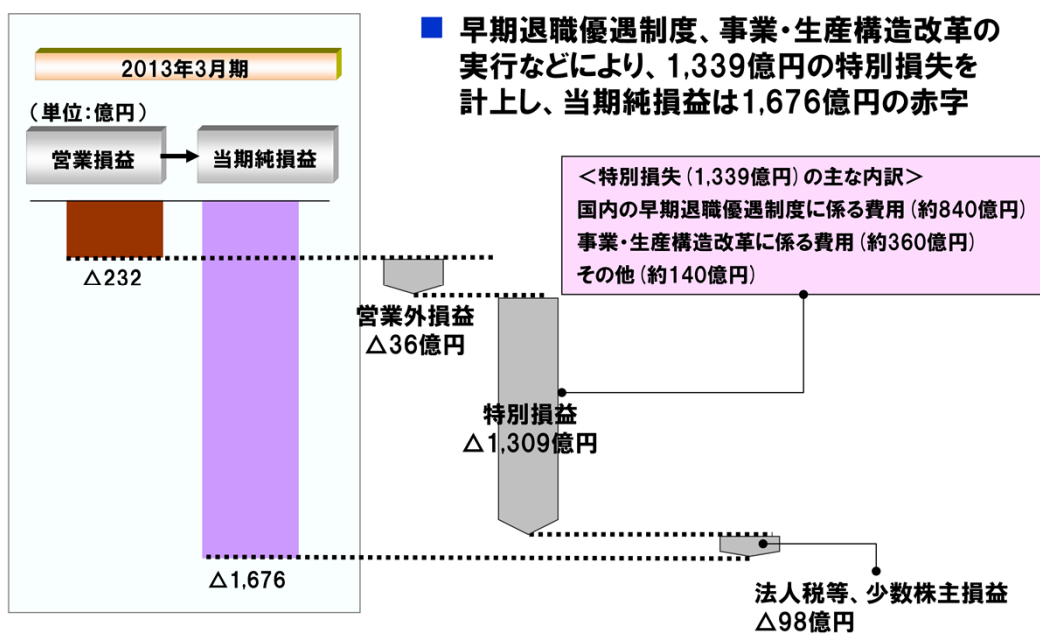
- 売上減に伴う利益減があったものの、製造固定費などの原価改善や為替影響などにより、前四半期比で160億円改善し、80億円の黒字化



8ページは、第4四半期の営業損益について、前四半期からの増減で示したものです。

営業損益は、売上減に伴う利益減があったものの、製造固定費等の原価改善や為替影響などにより、前四半期比で160億円改善し、80億円の黒字となりました。

2013年3月期 当期純損益の状況



© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

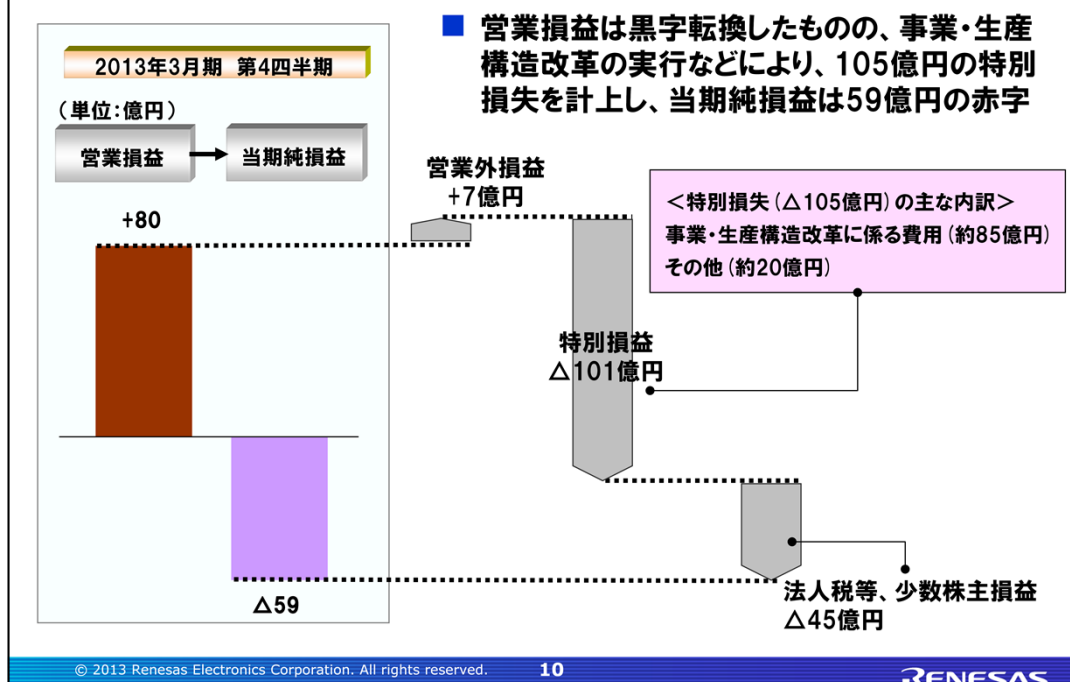
9

RENESAS

9ページは、2013年3月期通期の当期純損益の状況について、営業損益と特別損益の内訳で示したものです。

営業損益は前期より改善しましたが、早期退職優遇制度、事業・生産構造改革の実行などにより、1,339億円の特別損失を計上し、当期純損益は1,676億円の赤字となりました。

2013年3月期 第4四半期 純損益の状況



10ページは、第4四半期の当期純損益について、営業損益からの増減を示したものです。

第4四半期におきましては、営業損益は80億円の黒字に転換しましたが、事業・生産構造改革の実行などにより、105億円の特別損失を計上し、当期純損益は59億円の赤字となりました。

バランスシートの状況

(単位:億円)	12/4期首	12/12末	13/3末
総資産	8,582	7,167	6,691
うち 現金及び現金同等物	1,319	951	777
うち たな卸資産	1,518	1,493	1,513
負債合計	6,317	6,433	5,912
うち 有利子負債	2,583	3,162	3,064
株主資本	2,434	817	758
純資産合計	2,265	734	779
D/Eレシオ(グロス)	1.19倍	5.00倍	4.59倍
D/Eレシオ(ネット)	0.58倍	3.50倍	3.43倍
自己資本比率	25.4%	8.8%	10.0%

(注)①現金及び現金同等物:「現金及び預金」と「有価証券」の単純合算値から「預入期間が3ヶ月を超える定期預金」を控除しております。
 ②有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「リース債務」、「長期借入金」
 ③自己資本:「株主資本」、「その他の包括利益累計額」 ④D/Eレシオ(グロス):有利子負債/自己資本

© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

11

RENESAS

11ページはバランスシートの状況です。

現金及び現金同等物は、早期退職優遇制度の一時金支払いなどが発生し、前四半期比約174億円減の777億円となりました。

キャッシュ・フローの状況

- 早期退職優遇制度の実施に係る一時金支払いなどにより、通期のフリー・キャッシュ・フローは973億円の赤字
- 第4四半期も一時金支払が発生したが、営業キャッシュ・フローは黒字を回復

2013年3月期					
(単位：億円)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通期
営業活動による キャッシュ・フロー	△181	46	△475	69	△541
投資活動による キャッシュ・フロー	△107	△98	△61	△166	△432
フリー・ キャッシュ・フロー	△287	△52	△536	△97	△973

12ページは、キャッシュ・フローの状況です。

通期のフリー・キャッシュ・フローについては、早期退職優遇制度の実施に係る一時金の支払いなど、構造改革に伴う支払いにより、973億円の赤字となりました。

第4四半期も一時金支払が発生しましたが、営業キャッシュ・フローは黒字を回復しました。

II. 構造改革の進捗状況

続いて、構造改革の進捗状況についてご説明します。

1. 組織・人員に係る効率化施策

目的

- ✓ 意思決定の迅速化、業務の適正化・効率化
- ✓ 成長戦略に沿った設計・開発、製造、販売体制の再構築
- ✓ 費用構造の改善による収益基盤の更なる強化

- ✓ 7本部体制から4本部体制へ組織をスリム化
- ✓ 執行役員を16名から8名へ半減し意思決定を迅速化
- ✓ 40歳以上の総合職等の人的効率化

まず、組織および人員に係る効率化施策についてです。

当社は、意思決定の迅速化、業務の適正化・効率化、成長戦略に沿った設計・開発、製造、販売体制の再構築、そして費用構造の改善による収益基盤の更なる強化のため、組織のスリム化に向けた各種施策を実行しています。

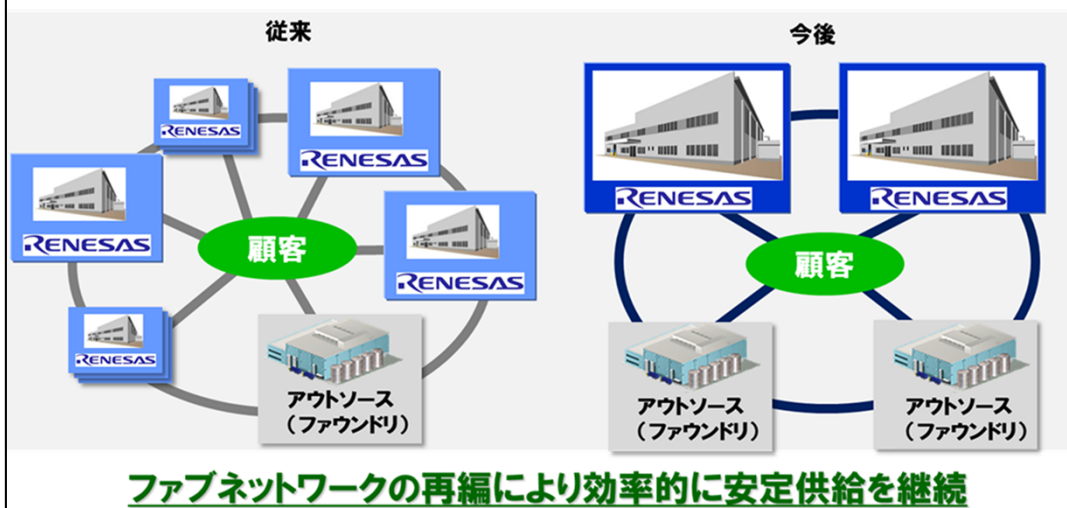
既に、7つあった本部を4本部とし、16名の執行役員を半分の8名としました。

また、人員構成の最適化について、既に公表しているとおり、40歳以上の総合職等を対象とした更なる合理化施策を実施します。

2. 生産体制の再編①:安定供給の継続に向けた対策

■ 生産再編に伴うファブネットワーク

- ✓ ファウンドリを含むファブネットワークをより選択的かつ確実に構築し、生産構造対策実行後も既存製品の継続的な安定供給体制を確保



© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

15

RENESAS

続いて、生産構造改革についてです。

当社は、2012年7月3日に国内生産拠点の再編を中心とした生産構造改革を公表し、現在、その方針の下、構造改革を実行中です。

ファウンドリを含むファブネットワークを選択的かつ確実に構築し、生産構造改革実行後も、既存製品の継続的な安定供給体制を確保します。

2. 生産体制の再編②:生産構造改革の進捗状況

- 2012年7月3日に生産構造改革を公表後、後工程1拠点の譲渡完了に続き新たに後工程3拠点の譲渡を決定し、生産構造改革は計画どおり進捗

	方針	現在の国内 拠点数/ライン数	構造改革後の国内 拠点数/ライン数
前工程	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大口径・微細化 ✓ 先端製品のアウトソース化 ✓ 特殊製品の自社生産継続 	9拠点 14ライン	7拠点 9ライン
後工程	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 海外生産シフトの加速 ✓ 国内外のサブコン活用強化 	8拠点 →5拠点 (13年6月予定)	2拠点

■13年1月1日 譲渡完了

- ✓ ルネサスハイコンポーネンツ(青森工場)*1をアオイ電子*2に譲渡完了

■13年3月19日 譲渡最終契約締結

- ✓ ルネサス北日本セミコンダクタの函館工場*3、ルネサス関西セミコンダクタの福井工場*4、ルネサス九州セミコンダクタの熊本工場*5を13年6月上旬にジェイデバイス*6に譲渡予定

*1:株式会社ルネサスハイコンポーネンツ(青森県北津軽郡鶴田町)

*2:アオイ電子株式会社(香川県高松市)

*3:株式会社ルネサス北日本セミコンダクタ 函館工場(北海道七飯町)

*4:ルネサス関西セミコンダクタ株式会社 福井工場(福井県坂井市)

*5:株式会社ルネサス九州セミコンダクタ 熊本工場(熊本県大津町)

*6:株式会社ジェイデバイス(大分県日田市)

© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

16

RENESAS

次に具体的な進捗状況をご説明します。

生産構造改革の第一号案件として、青森にある後工程工場、ルネサスハイコンポーネンツのアオイ電子株式会社様への譲渡を2013年1月1日に完了しました。

これに加え、後工程3拠点の譲渡について2013年3月19日に最終契約を締結しました。本年6月上旬にルネサス北日本セミコンダクタの函館工場、ルネサス関西セミコンダクタの福井工場、ルネサス九州セミコンダクタの熊本工場を株式会社ジェイデバイス様に譲渡する予定です。

これらにより、当社の日本国内の後工程拠点は5拠点となり、さらに発表した構造改革を行った後は、2拠点となる見込みです。一方、国内前工程拠点については、現在の9拠点14ラインから、構造改革後には、7拠点9ラインとなる見込みです。

2014年3月期 業績見通しについて

- 当社は、2013年2月22日開催の臨時株主総会において承認された第三者割当増資による(株)産業革新機構および事業会社8社からの出資を控えており、中期展望を含む業績予想を策定中であることから、現時点において2014年3月期の連結業績予想を開示していません。
- 当該出資が完了した後、業績予想の開示が可能となった時点で、適時に公表いたします。

2014年度3月期の業績見通しについてですが、今回の発表は見送らせていただきました。その背景をご説明します。

当社は、2013年2月22日開催の臨時株主総会において承認された第三者割当増資による(株)産業革新機構および事業会社8社からの出資を控えており、中期展望を含む業績予想を策定中であることから、現時点において、2014年3月期の連結業績予想は開示していません。

当該払い込みが完了した後、業績予想の開示が可能となった時点で、適時に開示したいと考えております。



2013年3月期 通期の決算概要のご説明は以上でございます。
本日は有難うございました。